

令和4年度大和市社会教育委員会議臨時会（第32期） 会議録

会議名（審議会等の名称）	令和4年度大和市社会教育委員会議臨時会（第32期）		
開催日時	令和4年9月26日（月曜日）午後3時00分～午後4時45分		
開催場所	文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室		
出席状況	委員	10人：伊藤（仁）委員、大川委員、大澤委員、小森委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、箱崎委員、長谷部委員、丸田委員	
	関係各課	1人：図書・学び交流課長	
	事務局	2人：文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員1人 学び交流係（259-6104）	
	傍聴人数	0人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開		
非公開・一部非公開の場合はその理由			
	<p>1 会議次第</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>1) 家庭教育支援講座について</p> <p>2) 家庭教育支援について</p> <p>(3) その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><開会></p> <p><協議事項></p> <p>(1) 家庭教育支援講座について図書・学び交流課社会教育主事より説明。</p> <p>(市) 11月23日（水・祝）に開催予定の家庭教育支援講座についてご説明する。資料1の開催要項をご覧いただきたい。広報やまと及びチラシ、ポスターで講座の周知を10月1日（土）から行い、申し込みは11日（火）から開始する予定である。続いて、①部屋ごとの人数について、会場である中央林間コミセンは前回7月の会議の時点ではコロナ対策で各部屋に定員制限があったが、現在は定員制限が無くなっている。このため、講座を開催する集会室は参加者16名、講師2名、社会教育委員8名、図書・学び交流課職員3名の予定。保育を実施する休養室は、ボランティアセンターから2名、社会教育委員1名の予定。受付として社会教育委員2名の予定。受付の2名については受付終了後、集会室に入ってください。次に、②社会教育委員の役割分担について、前回の会議で役割を決めていただいた。休養室での保育についてボランティアセンターから2名お越しいただく予定だが、保育対象のお子さんが多く来た場合に備え、社会教育委員の中から1名、保育の担当を決めていただきたいと考えている。続いて③11月23日の集合時間について、当日は午後12時に中央林間コミセンへ直接お越しいただきたいと考えている。12時から会場設営し、12時30分から受付を開始、13時から講座開始予定である。最後に④会場へのアクセスについて、中央林間</p>		

コミセンは中央林間駅から徒歩10分程度である。駐輪場はあるが、駐車場は無いので、公共交通機関でお越しください。会場レイアウトなど詳細については、後日送付させていただきます。

(議長) 事務局からの説明に基づき、保育の担当者を1名決めたい。

(委員) 1名だと講座に全く参加できなくなってしまうので、2名決めて交代制にするのがよいと考える。

役割は以下のとおり決定。

保育2名：大川委員、中山委員

(委員) 当日、猛毒のカエンタケが生えているかもしれないので、見つけても決して触らないよう、森に行く前に注意喚起をした方がよい。写真を持っていくのでそれを参加者に見てもらおうのが良いのではないかと思います。

(市) 承知した。

(議長) 続いて、協議事項2の家庭教育支援について、事務局より説明願いたい。

(市) 資料2をご覧ください。社会教育委員会議の活動成果をまとめていく上で、これまでの取組経緯や主催講座の状況を再確認し、前回までの会議で社会教育委員の皆様からご意見やお考えをお聞きした。それを踏まえ、丸田議長に「家庭教育支援に関する提言」の素案を作成していただいたので、内容や構成について協議していただきたい。

(議長) 皆さんは初めて目を通すものになるので、内容等についてこの場で考えるのは難しいと思う。今日は構成について協議できればよいと考えている。持ち帰って読んでいただき、次回会議で修正点等があれば報告していただきたい。5分ほど読む時間を設けるので、その後各委員のご意見等お聞きしたい。

(委員) 「研究のねらい」について、コミセンが利用されていないと誤解されかねない記載になっているので、「保護者と子どもが一緒に利用する機会が少ない」という表現にするべきではないか。

(委員) 承知した。

(委員) どこの地区の活性化会議もコロナの影響であまり活動ができていないと聞いている。活性化会議では、柱になるような統一されたものがない。核となるようなものがあればいいと思っていたので、活性化会議を活用することはとても良いことだと思う。

(委員) 先日、地区の活性化会議に出席したが、活性化会議ができて20年経ち、今後どうしていったらよいのかという話になった。保護者によっては、活性化会議に全部任せればよいという考えがあったが、それは違うと思う。この提案で是非進めていきたいと思う。

(市) 厚木市は家庭教育支援について数年前から取り組んでいて、地域ぐるみの家庭教育支援事業という形でやってきている。事業の目的は、地域で子どもを育てると意識の向上であり、地域の特色ある既存事業に家庭教育支援の視点を取り入れて市内に展開していこうという取り組みをしている。それも踏まえ、大和市では今後どうしていいのかということだが、活性化会議も選択肢の一つとして家庭教育支援の視点を取り入れて事業をやっていくような働きかけをするのもよいと思う。また、読み聞かせの団体に家庭教育の視点を持って取り組んでもらうなど、様々な

視点でこの家庭教育支援事業を繋げていければと思っている。引き続き委員の皆様よりご意見をいただきたい。

(議 長) 厚木市からの話があったが、厚木市は毎年公民館2館が活動の発表を行い、それを聞いた他の公民館が意見を出すというような取組をしている。公民館なので行政が事業として行っている。大和市では、行政ではなく活性化会議のような地域ボランティアの方々にやってもらう方向はどうかと考えている。それが本来の姿だと思う。

(委 員) 家庭教育を地域ぐるみで支援するような体制にしていく手法としては、標語を作るということも考えられる。標語があることにより、団体や民間など色々な立場の人達が取り組みやすくなるのではないかな。

(委 員) 標語は誰が作ることを想定しているか。

(委 員) 市民公募がよいのではないかな。そうすることで多くの方の目に留まり、市民の意識が高まるのではないかなと思う。

(委 員) 標語のテーマはずっと変わらないものを想定しているのか。

(委 員) 骨子となる大きなテーマは変わらないものとイメージしている。「地域ぐるみの家庭教育支援」がキーワードとしてよいのではないかな。

(委 員) 我々が作ったきっかけをもとに、活性化会議の各地区の特性を活かしてどのように発展していくのか非常に興味がある。

(委 員) 私が活動している地区の活性化会議では引地川中心の事業を展開している。活性化会議は自治会、PTA、団体の集まりであり、その中で家庭教育支援はやってきているが、20年も経ちマンネリ化してきている部分もあるので、よい機会だと思う。

(委 員) それぞれの地区の活動を発表する機会はないのかな。

(市) 各地区の会長が集まり報告をする機会はあるが、各地区の活動を会員に対して発表するような場はない。各地区の会員が集まる機会としては、年に1回実施している研修会のみである。

(議 長) 活性化会議は神奈川県内の市町村で始まったが、現在まで活性化会議という名前が残っているのは大和市だけである。長く続いてきているので、何とか社会教育委員の立場から活動をより活性化させたいという思いがある。

(委 員) 9つの地区の活性化会議がどのような活動をしているのか分からないが、それぞれの地区での活動の発表の場を設けるとよいのではないかな。

(議 長) 例えば9つある地区のうち毎年2地区ずつ活動の発表を行い、社会教育主事が指導助言するような形にしていくのもよいと思う。

色々なご意見をいただいたが、今日は柱建てをしたい。「1はじめに(本市と世の中の状況)」「2研究のねらい」「3研究経過」「4研究結果」「5提言」という組み立てを考えたのだが、構成はこれでよいかを確認したい。また、提言書の最後には社会教育委員の名簿や活動内容を載せたいと考えている。

(委 員) 提言を簡潔にまとめると家庭教育支援事業ということか。

(議 長) 子どもたちを地域で育てていくために、活性化会議等の民間の力を借りてやっていったらどうかということである。

(委 員) 端的にまとめるとどういうことか。

(市) 「地域ぐるみの家庭教育支援の推進」ではないかな。

(委 員) 「2研究のねらい」は「研究の課題」ではないかな。

- (議 長) 確かにねらいではなく課題である。修正させていただく。
- (市) 現時点の提言書では、活性化会議が中心を担っていくように読めるが、やりたくてもやれない地区もあるかもしれない。そこは調査したうえで進めていく必要がある。また、課題についてだが、活性化会議を活性化させることも課題ではないか。そのためには、まずは活性化会議の現状を把握する必要がある。その結果次第では提言の内容も大きく変わる可能性もある。活性化会議を中心に据えたらどうかという意見自体は非常に大事なことだと思うが、現状を把握したうえで、活性化会議をお願いするのが難しければさらに大きな組織に任せ、活性化会議にはその一翼を担っていただくという形も一つの方法であると思う。
- (議 長) 構成について他にご意見がなければ、このまま進めていきたい。先ほど、コミセンについて記載の変更についてのご意見があったが、どのように修正するか。
- (委 員) 「保護者と子どもの触れ合う機会をどのように作るのか」という内容を加えればよいのではないか。コミセンと児童館は併設されているのだが、それぞれコミセンは貸し部屋としてサークルの支援、児童館は子どもの遊び場ということで、現状まとまったものがない。せっかく一つの施設にあるのだから、一緒に何かできるように指導してあげると良い方向に進むのではないかと思う。
- (委 員) 10年ほど前、コミセンに勤めていたが、午前はコミセンのサークル活動、午後は児童館、夜は再びサークル活動という形になっているので、一緒に何かするのはなかなか難しいかもしれない。
- (市) 我々も構成について検討させていただきたい。また、活性化会議の実態についても調査したいと思う。
- (議 長) では事務局には構成を検討していただき、「3研究経過」について、過去の講座内容を記載してもらいたい。また、委員の皆様には資料を持ち帰っていただきご意見があれば次回会議で出していきたい。では、次回会議の日程について事務局より説明をお願いしたい。
- (市) 家庭教育支援講座の実施後、そのアンケート結果を踏まえて第3回定例会は11月28日(月)か29日(火)のいずれかで開催したいと考えている。
- ・11月28日(月)は箱崎委員欠席
 - ・11月29日(火)は齋藤(道)委員、長谷部委員欠席
- 次回会議は、欠席者の少ない11月28日(月)に開催決定

以上で議事を終わる。

<閉会>

会議資料

- ・令和4年度社会教育委員会議臨時会(第32期)次第
- ・第32期大和市社会教育委員名簿
- ・令和4年度家庭教育支援講座(開催要項)
- ・「家庭教育」に関する提言(意見交換)